

岩手県職労

月2回刊=第1651号
 2024年6月30日
 発行日 毎月15日30日
 発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合 印刷所 盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジロー印刷企画 一部 40円
 組合員購読料は組合費に含む

県職連合第36回・県職労第132回定期大会 みんなで討論・決定・行動し、組織拡大と要求実現を

6月1日、県職連合・県職労は定期大会を開催し、組織強化、賃金改善、権利向上、制度・政策要求等の運動方針について、代議員からの補強発言を受けて確立した。「社会と公務の変化に応じた給与制度の整備」をはじめとする人事院及び県人事委員会闘争等に向けた当面の闘争方針も決定。結びに、大会宣言を満場一致で採択し、小田嶋委員長の団結力ンバローで意思統一した。



▲2024年度の運動方針を賛成多決で決定した県職連合第36回・県職労第132回定期大会

【委員長あいさつ(要旨)】
 能登半島地震から5か月。現地はなかなか復旧が進まず、被災者の疲労はピークに達している。大会冒頭で、

現職死亡組合員2人への黙とうを行った。心からお悔やみ申し上げたい。洋野町で豚熱が発生し、多くの組合員がと殺業務に

従事している。特に、久慈地区では24時間体制となっている。今回の対応にあたり、公共交通機関での移動時間を勤務時間に含めること、100km未満の新幹線利用を認めることは、組合が要求したから実現した。組合がなければ認められな

みに繋げてほしい。**組織強化** 新採用職員の組合加入率

来賓あいさつ



岩手県地方公務員共闘会議 村上智加子 副議長

「組合を使う」意識を職場の若手職員に伝え、組合を身近な存在にしながら加入拡大に取り組んでほしい。

働きやすい職場づくり 在宅勤務の条件緩和について、先日人事課と交渉した。また、6月から勤務間インターバル制度が施行された。利用したい人にとっては良い制度だが、慢性的に多忙な職場の

まま、一方が制度を利用し、他方が苦勞するのでは本末転倒。



自治労県本部 及川隆浩 執行委員長



こくみん共済coop岩手推進本部 佐藤伸一 本部長

が伸び悩んでいるが、いかに組合を日常から身近に感じてもらうかが分かれ目。「組合を使う」意識を職場の若手職員に伝え、組合を身近な存在にしながら加入拡大に取り組んでほしい。

2024春闘では、民間企業が報告されている。私たちが報告されている。私たちの賃上げ要求は「民間がこうだから」ではなく「自分たちの暮らしはどうか」という視点で進めていくことが大切だ。

今回、「社会と公務の変化に応じた給与制度の整備」に関する署名の取り組み



▲さらなる組織強化等について確認した

みをお願いした。皆さんは会計年度任用職員を含めた組合未加入者全員に署名をお願いできていたか。日頃から組合の取り組みを共有する努力ができていくかが重要であり、その中で政策に関わる課題が政治闘争、私たちの声を託す候補者を応援するのが選挙闘争であり、日常の取り組みの一面として考えてほしい。

自治労本部・及川執行委員長 2024春闘では、中小企業を中心に苦戦している。経済の循環が進まない要因は賃金にある。福祉職場を中心に厳しい状況であり、秋の確定闘争を一緒につくっていく。また、初任給格付や中途採用者履歴換算の改善についても、取組を支援していきたい。

地方自治法改正法案にみ 採用された職員89人のうち9人が1年以内に退職した。市役所の働き方にも多くの課題があり、継続的に改善を求めていく。自治体の「防災力」強化のためにも職員数の確保が必要であり、次回の一般質問で取り上げたいと考えている。

地方公務員の給与をはじめとする労働条件は法律・条例で定められるものである。労働組合では、労使交渉に取り組むことはもちろん、政治の場に働く者の声が届く取組も重要である。所属する立憲民主党では、衆議院総選挙に向けて、既に候補予定者を決めた。政治を変える必要性は高まっている。しっかりと訴えていきたい。

「市民の笑顔かがやく街もりおか」をめざして 野中やすし 政治活動報告



県職労組織内議員 野中 靖志 (盛岡市議会議員)

昨年8月の盛岡市議会議員選挙では、県職労をはじめ、多くの皆様のお力をいただき、8位という上位での当選をすることができた。改めて御礼申し上げる。地元・浅岸地区では、通学路の安全確保のため、昨年浅岸一丁目交差点に押しボタン式信号機の設置を求めた。その結果、今冬頃に設置が実現する予定となった。引き続き、通学路の確保に取り組んでいく。

盛岡市役所では、昨年度

スーパーには様々な食品が並び、そのほとんどが包装されて陳列されている。これらは工場製造され、加工食品と呼ばれる。また、袋菓子、パン、ソフトドリンク、アイスクリーム、餡などは「超」加工食品と呼ばれる。カロリーの高い食品が多い。超加工食品は、タバコやアルコールと同じような依存症があるようだ。超加工食品は、家庭で調理される食事に比べ脂肪分、糖分、塩分が多く含まれ、味を増強する成分も添加され、脳の報酬系を強く活性化させる。食べるものは自分の意思で決めていると思いがちだが違い、依存性によるものと、ある心理学・脳科学教授が語っていた。大袋のポテチをいつの間にか間食してしまう経験は誰でもあると思う。この現象の原因は、「意思の弱さ」ではなく、超加工食品依存症かもしれない。それが心臓病、肥満など様々な原因による死亡のリスクも。自身自身の健康のため、家族を守るため、私たちが求める健康で安心して働き続けられる環境を整備するために、自分の健康管理意識を持ち、不安が生じた際には、手遅れになる前に周りの仲間と相談しよう。

第五世代

加工食品と呼ばれる。また、袋菓子、パン、ソフトドリンク、アイスクリーム、餡などは「超」加工食品と呼ばれる。カロリーの高い食品が多い。超加工食品は、タバコやアルコールと同じような依存症があるようだ。超加工食品は、家庭で調理される食事に比べ脂肪分、糖分、塩分が多く含まれ、味を増強する成分も添加され、脳の報酬系を強く活性化させる。食べるものは自分の意思で決めていると思いがちだが違い、依存性によるものと、ある心理学・脳科学教授が語っていた。大袋のポテチをいつの間にか間食してしまう経験は誰でもあると思う。この現象の原因は、「意思の弱さ」ではなく、超加工食品依存症かもしれない。それが心臓病、肥満など様々な原因による死亡のリスクも。自身自身の健康のため、家族を守るため、私たちが求める健康で安心して働き続けられる環境を整備するために、自分の健康管理意識を持ち、不安が生じた際には、手遅れになる前に周りの仲間と相談しよう。

方針に対する主な質疑・答弁

《盛岡支部・小笠原代議員》

・児童相談所の夜間・休日対応が本来の勤務時間となつた。専門職種課題を継続要求した成果だ。

・若手組合員の組合費負担が重い。組合費率改定を検討する余地はあるか。

(答弁)

・専門職種の課題は、当事者が自ら取り組む本来の形に近づけていきたい。

・組合費は定率がベースで、賃金水準に連動。組合は若

《二戸支部・佐藤代議員》

・55歳昇給抑制撤廃を。能登半島地震や豚熱の職員派遣等、危機管理対応が

相次ぎ、職場が持たない。有事を見据えた職員増を。

(答弁)

・高齢層の昇給抑制撤廃に向け、今後も要求していく。

《胆江支部・本間代議員》

・会計年度任用職員の仕事について「事務補助」が実際に常勤職員と変わりに

い。実態把握すべき。

(答弁)

・「事務補助」で任用されても、職場の欠員状況等により、実質的に常勤職員と

《気仙支部・佐藤代議員》

・気仙地区の2つの公舎が老朽化により今年度から新規入居させないこととなり

共益費を居住者数で割るため、1人あたりの負担が大

(答弁)

幅が増えている。こうした課題も強く要求してほしい。

《胆江支部・佐々木代議員》

・豚熱対応をいきなり命じられ、業務に支障が出た。本当に対応準備できていた

か、対応の外注を予算要求

(答弁)

・豚熱対応については、実態をお知らせいただきたい。また、今後に向けた検証を

《宮古支部・大崎代議員》

・政治課題は、署名を回覧する程度ではなかなか理解が広がらない。皆様の御意見をいただきながら、取り

組み方を工夫していきたい。

(答弁)

・フルタイムの再任用職員は一部の会計指導担当が主

《胆江支部・中川代議員》

・奥州地区でエアコンのない公舎は入居希望者が少ない。公舎をなくす流れが

つられていく。支部要求があつたからこそ、監査の調

(答弁)

・空室が多い真の理由が隠されている状況がある。支部からの要求を大切な根拠として、取組のしかたを工

《宮古支部・内山代議員》

・公舎のエアコン設置について、副局長への独自要求

を行った。要求を踏まえ、

(答弁)

・執行環境、住環境は命にもかかわる重要課題だ。支部独自要求の多くは庁公舎

《釜石支部・大崎代議員》

・会計年度任用職員の加入促進に取り組んでいる。他

支部との広い交流の場、自治労県本部での交流の場が

(答弁)

・現業評の取組と一体的に要求していく。

発言代議員



胆江・佐々木代議員



気仙・口岩代議員



盛岡・小笠原代議員



胆江・中川代議員



二戸・佐藤代議員



釜石・大崎代議員



胆江・本間代議員



宮古・内山代議員



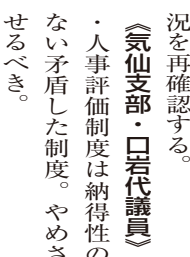
気仙・佐藤代議員



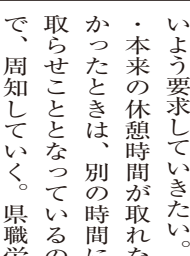
県庁・古館代議員



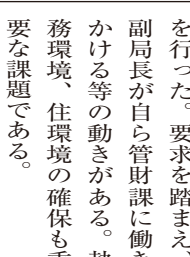
盛岡・小野代議員



胆江支部・口岩代議員



胆江支部・中川代議員



宮古支部・内山代議員

加入促進と日常討論を

小田嶋中央執行委員長

総括答弁要旨

若手組合員の組合費の負担感については理解するところ。組織財政等強化委員

会で、生活費負担の大きい中高年齢の課題も含めて組合費を議論したが、公平性

の観点から率で決めるのが妥当との結論に至った。新採組合員数が退職者の倍に

ならないと収入が均衡しない厳しい財政状況であり、組合費引き下げは簡単ではない。

以前と比較して、当局は強硬な姿勢であり、1回の交渉で結論を出すよう迫ってくる。組織率はこうした

ところにも影響しており、当局への牽制力という意味からも加入促進や職場からの日常討論が大切だ。

地共済の「職員健康交流会」について、新採用職員は原則出席するよう求められているが、職務上の取扱いは職専免であり、会場への移動は旅費が支給され

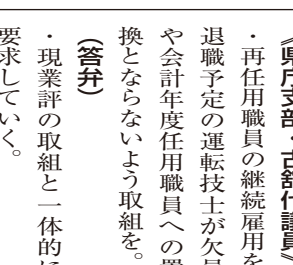
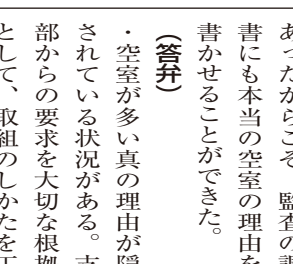
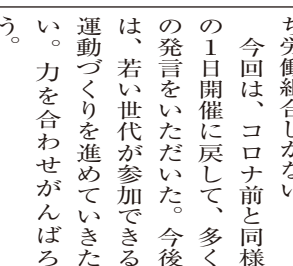
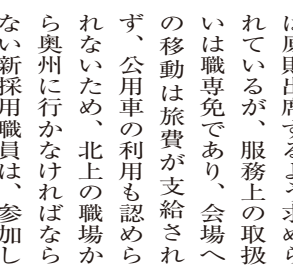
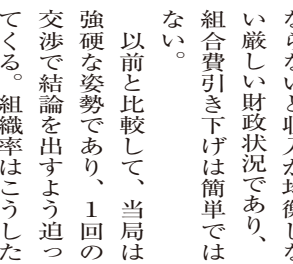
ず、公用車の利用も認められないため、北上の職場から奥州に行かなければならない新採用職員は、参加し

ないとの結論に至った。こうした例にみられるように、現場目線となっていない矛盾は身近にたくさんある。多くの課題を掘り起こすことができるのは、私たち労働組合しかない。

今回は、コロナ前と同様の1日開催に戻して、多くの発言をいただいた。今後は、若い世代が参加できる運動づくりを進めていきたい。力を合わせがんばろう。



▲総括答弁をする小田嶋委員長



▲答弁する藤村書記長

▲諸課題の改善に向け多くの議論が交わされた

夫していきたい。

・釜石地区でも今年度末で廃止予定の公舎がある。公舎廃止時に移転補償が支給されるのか、確認したい。

・他支部、自治労県本部との交流の場について、組合に入って良かったと思えるものを検討していきたい。

・廃止公舎の移転補償については、確認ができた次第情報提供する。

・公舎のエアコン設置について、副局長への独自要求を行った。要求を踏まえ、

副局長が自ら管財課に働きかける等の動きがある。執務環境、住環境の確保も重要な課題である。

・執行環境、住環境は命にもかかわる重要課題だ。支部独自要求の多くは庁公舎

に関わる課題であり、県職労全体としても要求していきたい。

・再任用職員の継続雇用を。退職予定の運転技士が欠員や会計年度任用職員への置換とならないよう取組を。

・現業評の取組と一体的に要求していく。